

# 技 術 ・ 家 庭 科

## 1 教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技術を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、問題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

## 2 指導要領の趣旨及び要点

### (1) 趣旨

#### ① 家庭科、技術・家庭科の目標の在り方

家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていくうえで必要であるなど、児童生徒の学習への関心や有用感が高いなどの成果が見られる。一方、家庭生活や社会環境の変化によって家庭や地域の教育能力の低下なども指摘される中、家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。また、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。目標とする資質・能力については、実践的・体験的な活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見出して課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度などを育成することを基本的な考え方とする。

#### ② 具体的な改善事項

家庭科、技術・家庭科家庭分野については、次の三点から示し方を改善することが求められる。

第一には、小・中・高等学校の内容の系統性の明確化である。児童生徒の発達を踏まえ、小・中・高等学校の各内容の接続が見えるように、小・中学校においては、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」に関する三つの枠組みに整理することが適当である。また、この枠組みは、「生活の営みに係る見方・考え方」も踏まえたものである。

第二には、空間軸と時間軸という二つの観点からの学校段階に応じた学習対象の明確化である。空間軸の視点では、家庭、地域、社会という空間的な広がりから、時間軸の視点ではこれまでの生活、現在の生活、これからの生活、生涯を見通した生活という時間的な広がりから学習対象を捉えて指導内容を整理することが適当である。

第三には、学習内容を踏まえた改善である。生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価、改善するという一連の学習過程を重視し、この過程を踏まえて基礎的な知識・技能の習得に係る内容や、それらを活用して思考力・判断力・表現力等の育成に係る内容について整理することが適当である。

## (2) 要点

### ① 目標の改善

教科目標及び分野目標については、育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし、全体に関わる目標を柱書として示すとともに、(1)として「知識及び技能」を、(2)として「思考力、判断力、表現力」を、(3)として「学びに向かう力、人間性等」の目標を示す。また、(1)から(3)までに示す資質・能力の育成を目指すに当たり、質の高い深い学びを実現するために、技術・家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方(見方・考え方)を働かせることを示す。

### ② 内容の改善

内容については、項目ごとに、育成する資質・能力を三つの柱に沿って示すことが基本となるが、特に「学びに向かう力、人間性等」については、教科目標及び各分野目標においてまとめて示すこととした。また、内容構成や履修方法については、以下のように改善を図った。

#### ア 技術分野

##### ○内容構成の改善

現代社会で活用されている多様な技術を「A材料と加工の技術」、「B生物育成の技術」、「Cエネルギー変換の技術」、「D情報の技術」の四つに整理し、全ての生徒に履修させる。なお、各内容を示す手順は、各学校における指導学年などを規定するものではないが、小学校における学習との接続を重視する視点から、生物育成の技術に関する内容とエネルギー変換の技術に関する内容の順序を入れ替えた。

##### ○履修方法の改善

技術に関する教育を体系的に行うために、第1学年の最初に扱う内容の「生活や社会を支える技術」の項目は、小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容としても指導する。

##### ○社会の変化への対応

指導内容については、生活や社会においてさまざまな技術が複合して利用されている現状を踏まえ、各技術に関連した専門分野における重要な概念等をも基にしたものとする。

#### イ 家庭分野

##### ○内容構成の改善

今回の改訂では、小・中・高等学校の内容の系統性を明確にし、各内容の接続が見えるように、小・中学校においては、従前の四つの内容を「A家族・家庭生活」、「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」の三つの内容としている。

##### ○履修方法の改善

内容の「A家族・家庭生活」の(1)については、小学校家庭科の学習を踏まえ、家族・家庭の機能について扱うとともに、中学校における学習の見通しを立てさせるためのガイダンスとして、第1学年の最初に履修させることとしている。また、「生活の課題と実践」に係る「A家族・家庭生活」の(4)、「B衣食住の生活」の(7)及び「C消費生活・環境」の(3)については、これからの三項目のうち、一以上を選択して履修させ、他の内容と関連を図り扱うこととしている。

##### ○社会の変化への対応

少子高齢社会の進展に対応して、家族や地域の人々とよりよく関わる力を育成するために、「A家族・家庭生活」においては、幼児との触れ合い体験などを一層重視するとともに、高齢者など地域の人々と協働することに関する内容を新設している。

# 家 庭 分 野

## 1 家庭分野の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

### ○生活の営みに係る見方・考え方を働かせる

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することを示している。

### ○衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して

理論のみの学習に終わることなく、調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して学習することにより、習得した知識及び技能を生徒自らの生活に生かすことを意図している。

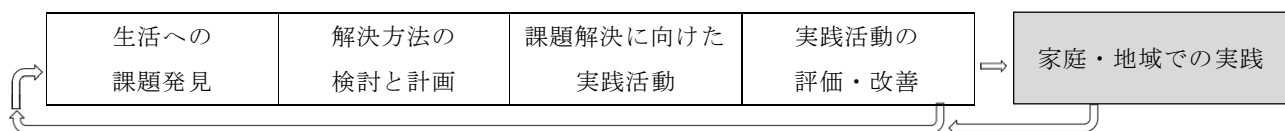
### ○生活を工夫し創造する資質・能力

この資質・能力とは、「何ができるようになるか」であり、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立に必要なものについて示したものである。

(1)の目標は、主として家庭生活に焦点を当て、家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関する内容を取り上げ、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けることを示している。

(2)の目標は、次のような学習過程を通して、習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成することにより、課題を解決する力を養うことを明確にしたものである。

### 家庭科、技術・家庭科（家庭分野）の学習過程の参考例



(3)の目標は、(1)及び(2)で身に付けた資質・能力を活用し、自分と家族、家庭生活と地域との関わりを見つめ直し、家族や地域の人々と協働して生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うことを明確にしたものである。

## 2 指導要領の趣旨及び要点

### (1) 趣旨

#### ① 平成 20 年改訂の学習指導要領の成果と課題を踏まえた目標の在り方

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、学習への関心や有用感が高い。
- 家庭生活や社会環境の変化により、家族への関心が低く、地域、家庭実践、社会参画が十分ではないことに課題が見られる。
- 今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められている。

#### ② 具体的な改善事項

##### ア 指導内容の示し方の改善

- 小・中・高等学校の内容の系統性の明確化
- 空間軸と時間軸という二つの視点からの学校段階に応じた学習対象の明確化
- 学習過程を踏まえた改善

##### イ 教育内容の見直し

- 人とよりよく関わる力を育成するための学習活動、食育を一層推進するための中学生の栄養と献立、調理や食文化などに関する学習活動の充実
- 金銭の管理に関する内容や、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容の充実
- 衣食住の生活において、日本の生活文化を継承する学習活動の充実
- 学習した知識・技能を実生活で活用するために、家庭や地域社会と連携を図った「生活の課題と実践」に関する内容の充実

### (2) 要点

#### ① 目標の改善

育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし、質の高い深い学びを実現するために、技術・家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることについて示した。

#### ② 内容の改善

##### ア 内容構成の改善

小・中学校ともに、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の三つの内容となった。中学校における空間軸の視点は、主に家庭と地域、時間軸の視点は、主にこれからの生活を展望した現在の生活としている。

##### イ 履修方法の改善

「A 家族・家庭生活」の(1)アは、小学校の学習を踏まえ、ガイダンスとして第1学年の最初に履修させる。また、「生活の課題と実践」に係る「A 家族・家庭生活」(4)、「B 衣食住の生活」(7)及び「C 消費生活・環境」(3)については、これら三項目のうち、一以上を選択して履修させ、他の内容と関連を図り取り扱うこととする。

##### ウ 社会の変化への対応

家族・家庭生活、食育の推進、日本の生活文化、自立した消費者の育成に関する内容の充実。

##### エ 知識及び技能を実生活で活用することに関する内容の充実。

##### オ 家族・家庭の機能と生活の営みに係る見方・考え方との関連を図る内容の充実。

### 3 内容及び内容の取扱い

A 家族・家庭生活
<p>(1) 自分の成長と家族・家庭生活</p> <p>ア 自分の成長と家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働</p> <p>(2) 幼児の生活と家族</p> <p>ア(ア) 幼児の発達と生活の特徴、家族の役割</p> <p>(イ) 幼児の遊びの意義、幼児との関わり方</p> <p>イ 幼児との関わり方の工夫</p> <p>(3) 家族・家庭や地域との関わり</p> <p>ア(ア) 家族の協力と家族関係</p> <p>(イ) 家庭生活と地域との関わり、高齢者との関わり方</p> <p>イ 家庭関係をよりよくする方法及び地域の人々と協働する方法の工夫</p> <p>(4) 家族・家庭生活についての課題と実践</p> <p>ア 家族、幼児の生活又は地域の生活についての課題と計画、実践、評価</p>
<p>内容の取り扱い</p> <p>(1) のアについては、家族・家庭の基本的な機能がAからCまでの各内容に関わっていることや、家族・家庭や地域におけるさまざまな問題について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承、持続可能な社会の構築等を視点として考え、解決に向けて工夫することが大切であることに気付かせるようにする。</p> <p>(1)、(2)及び(3)については、相互に関連を図り、実習や観察、ロールプレイングなどの学習活動を中心とするよう留意する。</p> <p>(2)については、幼稚園、保育所、認定こども園などの幼児の観察や幼児との触れ合いができるよう留意する。</p> <p>(3)のアの(イ)については、高齢者の身体の特徴についても触れる。</p>
B 衣食住の生活
<p>(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴</p> <p>ア(ア) 食事が果たす役割</p> <p>(イ) 中学生の栄養の特徴、健康によい食習慣</p> <p>イ 健康によい食習慣の工夫</p> <p>(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事</p> <p>ア(ア) 栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質</p> <p>(イ) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量、献立作成の方法</p> <p>イ 中学生の1日分の献立の工夫</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食文化</p> <p>ア(ア) 用途に応じた食品の選択</p> <p>(イ) 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理</p> <p>(ウ) 材料に適した加熱調理の仕方、基礎的な日常食の調理</p> <p>(エ) 地域の食文化、地域の食材を用いた和食の調理</p> <p>イ 日常の1食分のための食品の選択と調理計画及び調理の工夫</p> <p>(4) 衣服の選択と手入れ</p> <p>ア(ア) 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の選択</p> <p>(イ) 衣服の計画的な活用、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ</p>

<p>イ 日常着の選択や手入れの工夫</p> <p>(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作</p> <p>ア 製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い</p> <p>イ 生活を豊かにするための資源や環境に配慮した布を用いた物の製作計画及び製の工夫</p> <p>(6) 住居の機能と安全な住まい方</p> <p>ア(ア) 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能</p> <p>(イ) 家族の安全を考えた住空間の整え方</p> <p>イ 家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫</p> <p>(7) 衣食住の生活についての課題と実践</p> <p>ア 食生活、衣生活、住生活についての課題と計画、実践、評価</p>	<p>内容の取り扱い</p> <p>(1) のアの(ア)については、食事を共にする意義や食文化を継承することについても扱う。</p> <p>(2) のアの(ア)については、水の働きや食物繊維についても触れる。</p> <p>(3) のアの(ア)については、主として調理実習で用いる生鮮食品と加工食品の表示を扱う。(ウ)については、煮る、焼く、蒸す等を扱う。また、魚、肉、野菜を中心として扱い、基礎的な題材を取り上げる。(エ)については、だしを用いた煮物又は汁物を取り上げる。また、地域の伝統的な行事食や郷土料理を扱うこともできる。</p> <p>食に関する指導については、技術・家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮する。</p> <p>(4) のアの(ア)については、日本の伝統的な衣服である和服について触れる。また、和服の基本的な着装を扱うこともできる。さらに、既製服の表示と選択に当たっての留意事項を扱う。(イ)については、日常着の手入れは主として洗濯と補修を扱う。</p> <p>(5) のアについては、衣服等の再利用の方法についても触れる。</p> <p>(6) のアについては、簡単な図などによる住空間の構想を扱う。また、ア及びイについては、内容の「A家族・家庭生活」の(2)及び(3)との関連を図る。さらに、アの(イ)及びイについては、自然災害に備えた住空間の整え方についても扱う。</p>
<p>C 消費生活・環境</p>	<p>(1) 金銭の管理と購入</p> <p>ア(ア) 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理</p> <p>(イ) 売買契約の仕組み、消費者被害、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理</p> <p>イ 情報を活用した物資・サービスの購入の工夫</p> <p>(2) 消費者の権利と責任</p> <p>ア 消費者の基本的な権利と責任、消費生活が環境や社会に及ぼす影響</p> <p>イ 自立した消費者としての消費行動の工夫</p> <p>(3) 消費生活・環境についての課題と実践</p> <p>ア 環境に配慮した消費生活についての課題と計画、実践、評価</p>
<p>内容の取り扱い</p> <p>(1)及び(2)については、内容の「A家族・家庭生活」又は「B衣食住の生活」の学習との関連を図り、実践的に学習できるようにする。(1)については、中学生の身近な消費行動と関連を図った物資・サービスや消費者被害を扱う。アの(ア)については、クレジットなどの三者間契約についても扱う。</p>	

#### 4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。